

## 1. 講演内容の概略

テーマ3 地域で活躍する人材の教育では、社会福祉法人広島 YMCA 福祉会 YMCA 訪問看護ステーション・ピース管理者であるがん看護専門看護師の浜本千春様よりご講演をしていただきました。

はじめに、浜本先生が現在管理者として全般的なビジョンの提示や人材育成、訪問看護師が抱える処遇困難事例への介入、ステーション内外の専門職・初学者・一般市民向けに教育活動を行っている事等の発表がありました。次に、教育活動に関連して、現代の看護学の初学者の強みとして卒業後の進路選択の豊富さや卒後教育の充実を、また危うさや気がかりとして「学び方」が分からない事や基本的な生活体験の乏しさ等について述べられました。そして、初学者教育で配慮していることとして、学ぶ事は人生を豊かにすると体感できる機会を設けること、様々な看護の現場を見て現象を要約し看護とは何かを伝えていくこと、等についてお話下さいました。

## 2. 講演から学んだこと

人々の家族背景や生活様式が多様である現代において、看護教育機関の門をたたく学生の背景もまた一様ではありません。けれども、病む人を気づかう・気にかける心は、看護の普遍的なものであると考えます。学生は、電子カルテから情報収集し整理する事は得意ですが、患者と向き合って会話をすることはどうでしょうか。病む人を気づかう、という看護の基となる姿勢を、臨床現場において教育に携わる私たちが、言葉や行動で伝えていく必要性を改めて深く感じました。

## 3. ディスカッション

先生方の講演後、各出席者は興味のあるテーマに別れ、グループディスカッションを行いました。グループディスカッションは、浜本先生の発表に関する質疑応答や意見交換から始まりました。学校教育に携わる参加者から、近年は訪問看護を志す高校生がおり、地域看護や在宅看護の認知度があがっている証拠ではないかという意見がありました。大病院で勤務経験をもつ訪問看護師である参加者は、利用者はサービスを選ぶ立場で看護師は選ばれる立場であるため、病院勤務の時と比べ背負っているものが異なると、声高に話されました。地域で活躍する人材の教育に関連した取り組みとして、地域コミュニティから看護学実習を始める新設大学（申請中）の紹介や、学部1・2年生から地域看護学実習を実施している看護大学の情報提供が行われました。そこでは、若年時に地域実習を行い生活モデルに触れても、病院実習に行けば医療モデルに戻ってしまう懸念について話し合い、卒後教育と地域がつながりを持つことが重要では、という意見が出されました。

最後に、参加者から病院のシステムから看護計画に至るまで多くが電子化している現代において、臨床現場の看護師は考える事が少なくなっている、という危機感が語られました。ここでタイムオーバーとなり、十分な議論はできませんでしたが、私たち看護師が「考えなくなっている」ことは大きな問題であると警鐘を促され、グループディスカッションは閉幕しました。限られた時間でしたが大変有意義なディスカッションとなりました。